

令和 5 年 12 月 25 日

学校法人鬼木医療学園  
国際鍼灸専門学校  
校長 藤本 武久 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 粕谷 大智

## 学校関係者評価委員会報告書

令和 4 年度自己点検評価に基づき、下記のとおり学校関係者評価を実施しました。

### 記

#### 1 学校関係者評価委員

- ① 粕谷 大智（新潟医療福祉大学鍼灸健康学科教授、本校同窓会会長）
- ② 小林 潤一郎（日本鍼灸師会理事、東京都鍼灸師会副会長 小林はりきゅう院院長）
- ③ 佐坂 浩二（麗澤中学・高等学校教諭）

#### 教職員

藤本武久（校長）、吉村淳（理事長特別補佐）、鈴木まみ子（学科長）、望月信宏（教員）、川原田梓（事務長）

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

第 1 回委員会 令和 5 年 11 月 11 日（会場 国際鍼灸専門学校 講堂） 15:00～17:00

#### 3 令和 4 年度事業計画の概要説明

校長より令和 4 年度事業計画、学生状況、自己点検評価についての説明。

#### 4 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

## 審議内容

### 1. 教育理念・目的・人材育成像

理念・目的・人材育成像、特色ある教育活動、将来構想の設置について確認した。

国民に国家資格者による施術の魅力を発信し、あはきの受療率向上を目指すことは、すぐに結果が出るものではないが、業界団体としても同じ方向を向いて進めていきたいと考える。

### 2. 学校運営

理念等に沿った運営方針の策定、事業計画、意思決定システムの整備、情報システム化による業務の効率化などの取組みについて確認した。

HP 上での情報公開がなされた。開かれた学校として変わったと感じる。学校 HP も踏み込んだ内容になっており、社会情勢に合わせて取り組んでいることを感じる。

中長期ビジョンや学生募集に関する事などの課題を明確にし、教職員全員で連携協力をすることが重要がある。他校とここが違う、ここが特色であるということを出し、差別化を打ち出していく必要がある。

### 3. 教育活動

理念等に沿った教育課程の編成方針の策定、教育到達レベルの明示、教育目的・目標に沿った教育課程の編成、キャリア教育の実施、授業評価の実施、成績評価の実施、資格・要件を備えた教員の確保、教員の資質向上への取組みなどについて確認した。

令和 4 年度より協定企業が増加し、更にコロナ感染症の影響が減少し、プロ野球のトレーナー現地見学や葛飾区のボランティアなど特色ある教育活動となる学外での活動が活性化されている。

受験生または在校生に対しても、特色ある教育活動をカリキュラムマップなどの図で示すと分かりやすく、説明会などで親への説明の際には効果的なので検討を進めて欲しい。

学生授業アンケートの運用方法について、教員のフィードバックは実施しているものの、更に担当教員より反省点や改善点の提出なども取り入れ、教育の質向上への取り組みを押し進める必要がある。

令和 4 年度からは企業説明会を開催し、今まで以上にキャリア教育の幅を広げていることが伺える。

#### 4. 学修成果

就職率向上、資格取得率向上、退学率の低減、卒業生の社会的評価の把握について確認した。

退学率の低減は1年生でつまづかないようにすることが重要である。学校は入学間もない時期において基礎的な科目で脱落する学生を減らすため、担任制度や上級生との交流など対策の強化を提案した。

就職希望者の就職率は100%である。キャリア教育の充実も重要であるが、卒業生の就職状況を追えるとよい。卒業生の状況は同窓会との連携強化とも連動し、卒業生の活躍状況をひとつのコンテンツとしてアピールすることが出来ると感じる。

#### 5. 学生支援

進路・就職、学生相談、学生の健康管理、課外活動、卒業生、国家試験不合格者に関する支援体制などについて確認した。

令和4年度は専門実践教育訓練給付金制度の対象講座として再認定を受けたので、経済的支援の観点からも継続して欲しい。

企業説明会の新規実施や同窓会総会における在校生との交流や講演会などコロナ感染症の影響も少なくなりつつある。様々な企画の実施により今後の取り組みが期待される。

#### 6. 教育環境

施設・設備、学外の実習施設、インターンシップ、防災に対する体制の整備などについて確認した。

新たに超音波診断装置を導入し、特別授業として実技授業を実施したことは本校の特色にもなる。今後は、あはきの分野での研究発表にも取り組み、学生の教育にも積極的に取り入れるとよい。

本校の附属鍼灸治療所は療養費施術管理者の1年間実務経験取得先として卒業生の受け入れについて、支援にも繋がるので検討して欲しい。

#### 7. 学生の募集と受入れ

学生募集活動に関連したものについて確認した。

令和4年度は専門実践教育訓練給付金制度の対象講座となり、前年度より入学者が増加したが、定員充足率は十分と言えないので、学生募集についての課題をさらに検討する必要がある。例えば、受験生や高校の教員も鍼を受けた経験がない場合もあり、進路指導の先生に体験してもらう機会など、教員向けのオープンキャンパスもひとつの方法と考える。また、マッサージは社会的な需要が増え、介護に関連する需要も伸びることが考えられるので、あはき師が活躍する場面が増えることをアピールしていけるとよい。

学校HPも変わってきているが、さらに強化し、学校のPRを積極的に行うことが必要だと考える。

## 8. 財 務

財務、予算に関連したものとその情報公開について確認した。  
自己評価はおおむね適切に実施されていた。  
定員充足率を高め、経費削減などを実施し、安定した財務基盤を整える必要がある。

## 9. 法令等の遵守

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営、個人情報保護に関する対策、自己評価の実施について確認した。

法令遵守と適正な運営がなされている。自己評価の実施と公表、そして改善へとつながる取組みがなされていると感じる。

## 10. 社会貢献・地域貢献

社会貢献、地域貢献、学生ボランティア活動、公開講座の実施について確認した。

令和4年度は学生のボランティア活動支援を授業の中で組み込むことができ、葛飾区と連携した公開講座や同窓会の研修、学会の講習会など、積極的に社会・地域貢献している。今後も地域社会や業界団体との連携、そして災害ボランティアなどに協力していけるとよい。

### 総評

2年間の委員任期を振り返ると、入学者20名の厳しい時代にはじまって、校舎の建て替えにより施設も良くなり、様々な教育活動に取り組み、鬼木医療学園が今後よくなっていくのではないかという手ごたえを感じました。

以上